

授業づくりのヒントはここに！校長研修がアツかった！

6

24 JUN. 2025

自らの学びが、教職員と子どもたちの学びを変える

本年度から新たに始まった新しい形の研修会（CIO EDUtech）は指導者として信州大学名誉教授の東原義訓先生をお招きして伊那市役所多目的ホールにて行われました。

研修後、先生方からは「講義だけではない、問いと対話から深めるICT研修であった」との感想が寄せられ、「もっと学びたかった！」「やってみたい！」の声はずらり。校長先生たちが“学びのデザイン”を肌で感じる機会となりました。

研修 2

「協働的な学びの展開モデル」を体験する

授業の中で行われる「協働的な学びの展開モデル」を研修の中で実際に体験しました。その効果に「授業だけでなく、職員研修でも取り入れたい」との声も聞かれました。この研修方法が伊那市内の各学校で展開されていくことを期待しています

【展開1】課題

「協働的な学びの展開モデル」の授業では多様な考えが出てくるような課題が設定されます。このモデルについての詳細は「ICT活用教材DB」内に収録されている実践事例集NO32、33のフォルダ内に資料が整理されています。

【展開2】課題に対して自分の考えをスクールタクトに書く

研修では、ビジョンの具体化に向け自校の現状分析を行いながら、本年度の自校の取り組み目標を明確にするべく、「取り組んでいきたいこと」が事前にスクールタクトに書き込まれていましたので、今回の研修は次の【展開3】からスタートしました。

【展開3】スクールタクトに書かれた他の人の考えを吟味する

スクールタクトに書かれた他の人の考えを全て読みます。この時に、自分の意見と違う人や同じけど掘り下げて見たい人がわかります。

【展開4】で誰と会話すべきかがはっきりしてきます。

【展開4】他の人の考えに対して、その人と質問や意見をかわす

気になる意見を持っている人のところへ立って行って話をします。2～3人くらいの人と話をしたら席に戻ります。ファシリテータはある程度の時間が経ったら別の人も話すよう促します。

【展開5】他の人の考えを知って、自分の考えをより良いものにする

多様な考えを持った人たちと話すことによって自分も意見を修正した結果を整理して書き直します。これを【展開6】で共有することで自分や他の人の成長を実感することができますようになります。

【展開6】よりよく修正された考えを共有する

研修 3

「日本の現状と今求められている授業イメージ」

今回の研修では、東原先生から日本の教育が抱える課題と、これから求められる授業の在り方について、データとともに明快に示していただきました。

「自律学習を行う自信がない」日本の子どもたちの現状や、AIの進化を踏まえた新時代の学びの姿に触れる中で、これまでのやり方ではいけないという危機感が共有されました。個別最適化や新たな価値の創造といった言葉の本質を再確認するとともに、授業内での「対話」や「振り返り」の重要性が強調され、学校現場で具体的に何を考えるべきかを考える起点となりました。

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自立的な学び

子どもと共に未来を創る教員